ふるさとへの思いと絆をつなぐ広報誌

平成28年2月20日発行（毎月1回20日発行）

ふるさとだより

久之浜・大久、四倉、平、小名浜、勿来

2016年
February
NO.57
2

Pick up 復興への思い、各地の新成人

小名浜

今年も中之作が色鮮やかになる3日間「中之作つるし雛飾りまつり」が行われました。たくさんの来場者が訪れたメイン会場の清航館。可愛らしいつるし雛を見て、お母さんと来ていた市内在住の女の子も笑顔を見せていました。

久之浜 大久

「記憶の街・久之浜」出初め式、だるま市など

四倉

第一幼稚園新保育室完成
四倉地区成人式

平

豊間地区の成人式
沼ノ内「水祝儀」

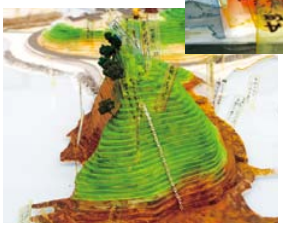
勿来

震災後初の「酉小屋」
追悼行事のお知らせ

ふるさとだよりの記事が動画で!!

マークのある記事にスマホやタブレットをかざすと動画が見られます!（見方はP11）

思い出を、まちの文化を伝えよう
「記憶の街・久之浜」



「震災で失われた故郷を模型で再現し、思い出を語り合い、まちの記憶そしてまちの文化を後世に伝えよう」、との目的で1月10日から16日までワークショップ「記憶の街・久之浜」が開かれました。震災以前の町を500分の1の模型で再現する今回の試みは、神戸大学槻橋修研究室が発案。被災3県の沿岸地域で模型作成が行われています。

福島県建築士会いわき支部青年・女性委員会と久之浜・大久地区まちづくりサポートチームのメンバーにより製作された模型は、市街地を1㎡のブロック9つに分けられた6帖にもなる大きさ。ワークショップ会場には多くの人が来場し、記憶をたどりながら模型に色を塗り、思い出話に花を咲かせました。「懐かしい顔と再会し、話しができ、楽しい時間でした。久之浜での幼稚園再開に向けて一歩一歩進んでいきたい」と、参加者の一人である久之浜第一幼稚園青木孝子園長。「まちの皆さんが模型を大いに利用して、良き記憶や文化を復元し、久之浜の子どもたちに継承するために使っていただきたい」と、サポートチームの共同代表・栗田祥弘さんが話しました。

今回作成された模型は、2月24日から3月4日まで、いわき産業創造館（いわき駅前ラトブ6階）に展示されます。

土地の高低差もわかる模型が作られました

家並みが再現され、様々な記憶がよみがえります

思い出を聞き、話を整理し模型に反映させます

真っ白の模型に木が植えられ、着色されました

思い出の学び舎で新たな一歩
久之浜・大久地区成人式

1月10日、久之浜・大久地区成人式が行われ、52名（男26名、女26名）が出席し、新たな門出を祝いました。

会場は、新成人思い出の久之浜中学校体育館。卒業式が行われた、まさにその日震災が起きました。新成人を代表し壇上に立った嶌津菜々さんが、当時のことにも触れ、新成人としての決意を述べました。

式終了後、記念行事「安心してください。大人ですよ！祝☆二十歳～感謝～」が開かれ、恩師を囲み、自分たちでついた餅を食べ語り合う姿が見られました。

思い出の学び舎に、新たな誓いと楽しい声が響きました

復興へ向けた動き

新たなまちづくりに向け景観形成重点地区に

震災復興土地区画整理事業に基づき、復興へ向けた工事が進む久之浜町内。市は、新たに建てられる建物や緑化などに一定の基準を定め、統一感のあるまちなみを創出するため、地権者などから組織された「久之浜・大久の景観を考える会」と平成27年1月より協議を進めてきました。

このたび、平の「月見町新川町通り」、小名浜の「小名浜花畑地区」に次いで、JR久ノ浜駅から県道久之浜港線の蔭磯橋手前までの区域を、市内3カ所目の景観形成重点地区となる「久之浜はまかぜロード景観形成重点地区」指定に向け、地域住民と行政の協働による新たなまちづくりの取組みを進めています。

本格操業の早期再開を願い 漁協久之浜支部　出初め式

CHECK! 動画が見られます!

震災後、神事のみ執り行われてきた、いわき市漁協久之浜支部の出初め式が、1月8日に行われました。今年は、大漁旗をはためかせた漁船が次々と出港し、本格操業の早期再開と海上安全を祈りました。「船を出さなかったら、『5年経ったのに、漁民は何をやってるんだ』って町の人に怒られちゃうよ」と笑って話す江川章支所長。久之浜の伝統行事がまた一つ戻ってきました。

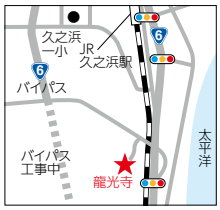
あの時を教訓に 津波避難訓練

1月16日、津波避難訓練が行われました。住民は福祉避難所でもある翠祥園に加え、高台の避難場所にそれぞれ避難しました。また、久之浜一小では、自助と共助による避難行動を呼びかける防災講話が行われました。

一次避難場所となる龍光寺に避難する南町の皆さん

津波避難場所ガイド

- 龍光寺
- 住所／いわき市久之浜町久之浜字後原68
- 面積／641㎡
- 海抜／20.0m



冬から春へ　久之浜・大久

星廼宮（ほしのみや）神社だるま市

陰磯橋の架け替えと県道工事に伴い、仮りの社殿が移転されている星廼宮神社。1月8日早朝、境内でだるま市が行われました。夜が明けきらぬうちから、多くの人が新春の縁起物いわきだるまを求めて神社を訪れました。

節分豆まき

CHECK! 動画が見られます!

「鬼は外!福は内!」元気な声が響き渡った2月3日節分。久之浜一小、二小、久之浜第一幼稚園そして保育所でも豆まきが行われました。子供たちは支所職員と先生が扮する青鬼と赤鬼に豆をぶつけ、邪気を追い払いました。

防犯だるま贈呈

CHECK! 動画が見られます!

2月4日、久之浜・大久防犯協会鈴木豊会長が久之浜保育所と平第一幼稚園を訪れ、子どもたちに白い防犯だるまを贈呈しました。今回で30回目の贈呈式、中央警察署久之浜駐在所伊藤秀介所長からの講話も行われました。

川又幸恵園長（前列左から2番目）と先生たち

震災からの軌跡

四倉第一幼稚園

市立四倉第一幼稚園は、原発事故の影響により園舎の一部で放射線量が高かったため、震災から約3ヵ月後の平成23年6月21日から、四倉公民館2階に移転しました。

園舎や園庭、近くの山林の除染をしても空間線量が下がらなかったため、24年4月からは四倉小の空き教室に引っ越して保育が続けられましたが、小学校の教室だったので、園児が使うには不便な部分もあったそうです。

26年10月には、校舎の耐震化工事と保育室の整備のために、同小校庭のプレハブ園舎に移転。

「工事は今年度いっぱいかかる予定でしたが、早く完了したため、年長のばら組の園児たちも、3学期の間だけですが、新しい保育室を使えることになりました」と、川又幸恵園長は話します。

3つの保育室には園児の体格に合わせた水道やロッカーなどが整えられたほか、広い遊戯室なども完備しました。

「新しい保育室は明るくて広いので、園児たちも大喜びです。移転のたびに場所が変わりましたが、園児たちの安全に配慮した保育ができたと思います。私たち大人よりも園児たちのほうが、環境の変化に順応するスピードが速いと感じました」。

原発事故に翻弄され、保育場所を点々とすること余儀なくされた同幼稚園でしたが、震災から5年目を迎えた今年、37名の園児と7名の先生たちが、新たなスタートを切っています。

成人式で「旅立ちの日に」を合唱

四倉地区の成人式が1月10日にいわき海浜自然の家で開かれ、128名の新成人が出席しました。記念式典では、来賓祝辞などに続いて、新成人を代表して二瓶正成さんが、「これまで育ててくれた両親をはじめ、多くの方々への感謝の気持ちを忘れずに、故郷の復興のために、少しでも貢献できるよう立派な社会人を目指して、努力と精進を重ねます」と、あいさつしました。

式の後には「四倉おかあさんコーラス」が「いのちの歌」と「旅立ちの日に」を合唱。「旅立ちの日に」は、新成人のみなさんも一緒に合唱しました。

新成人を代表してあいさつをする二瓶正成さん

「旅立ちの日に」の歌声が会場に響きました

CHECK! 動画が見られます!

復興へ向けた動き

第2回市原子力防災図上訓練を開催

四倉地区の第2回市原子力防災図上訓練が、1月14、19、21、26日に行われました。

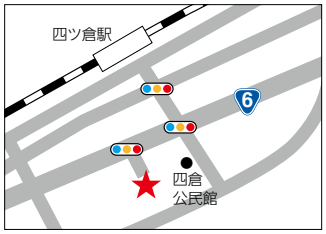
昨年9月下旬から10月上旬にかけて行われた第1回訓練では、情報伝達と避難についての地域課題と解決策を洗い出しました。今回はその検討と、対応策の決定が目的です。

1月14日の訓練は四倉5、6、8～16区が対象で、自主防災会や消防団、民生・児童委員などが参加しました。班ごとのワークショップでは、「避難を呼びかける広報車の声が聞き取りにくい。もっとゆっくり走るべき。車を止めて呼びかけることも必要」などの意見が出されました。

テーブルごとに解決策を出し合う参加者

津波避難ビルガイド

- 四倉中学校校舎
- 住所／四倉町字東一丁目65
- 階数／4階建て
  (3階以上に避難)



津波避難訓練 陸自の炊き出し訓練も

市津波避難訓練が1月16日に行われ、四倉地区では約750名が参加しました。

町内15ヵ所の1次避難場所を経て、参加者は四倉高校や大浦小学校に避難。両校では陸上自衛隊郡山駐屯地の隊員による炊き出し訓練も行われ、参加者に豚汁が配られました。

四倉高での炊き出し訓練

1次避難場所に集まる住民

四倉ピックアップ

テントをキャンバスに

好きな色で花や自分の名前などを描く児童たち

1月25日、四倉小の6年生が、道の駅よつくら港に隣接するテント〈ふれあい館〉の側面に描かれた花を、思い思いに彩色しました。

大浦小で芸術鑑賞

体育館で糸あやつり人形を体験する児童

1月14日、文化庁の「舞台芸術による子どもの育成事業」(東日本大震災復興支援対応)で、約360年の歴史がある江戸糸あやつり人形を上演。

児童・生徒代表が意見発表

講師の森繪留(えるる)さんと、発表した児童・生徒のみなさん

1月30日、四倉公民館で第24回四倉地区青少年健全育成推進大会が開かれ、記念講演会と小中高生による意見発表が行われました。

アンコウ吊るし切り

吊り下げられた約15kgのアンコウをさばく参加者

1月23日、道の駅よつくら港でアンコウの吊るし切り体験があり、親子連れなどが挑戦。アンコウは鍋にして来館者に振る舞われました。

豊間中学の卒業生たちまとまりの良い仲間。

豊間中学校旧校舎 最後の卒業生たちの成人式

1月10日、いわき芸術文化交流館アリオスで「平成28年度成人式」が行われました。

参加者のなかに豊間地区の新成人たちの姿もあり、式典では参加者を代表して、沼ノ内の鈴木風美花さんが「誓いの言葉」を宣言。

「今までお世話になった方々への感謝を忘れずに、豊かで幸せな未来のために精進し、市の発展と個々の成長に希望をもって一歩一歩進んで行くことを誓います」。

会場で出会った新成人に、この日を迎えた感想を聞いてみました。

■久保木正樹さん（沼ノ内出身・大学生）

「地元のみんなに会って、やっぱり豊間中で良かったと思いました。そして、旧豊間中学校舎の最後の卒業生であることに誇りを持っています。地元の復興に少しでも力になり、活気ある豊間にしていきたい」

■室谷愛海さん（薄磯出身・大学生）

「中学校卒業と震災が重なり、将来に不安しか持てなかったが、家族や周りの人に支えられたこと、看護師になりたいという将来の夢を見つけられたことを嬉しく思っています。夢を叶えるために手助けしてくれる方々にいつか恩返しをしたい。行動に責任を持っていきたい」

中学時代はバレー部だった久保木正樹さん

薄磯の実家近くで、室谷愛海さん

沼ノ内「水祝儀」

1月11日、沼ノ内愛宕神社で約400年続く地域伝統行事の「水祝儀」が行われました。今年の初婿は永山慶太さん（26歳・整備士）と大平崇史さん（25歳・整備士）でした。大平さんは沼ノ内青年会メンバーで昨年まで3年間「桶持ち」と呼ばれる水をかける役で、かつての仲間たちから手荒な祝福を浴びていました。足、腰、頭の順に3回水をかけ終わるまで続きますが、桶持ちたちがわざと水をこぼしたりするのも恒例で、約1時間寒さに耐えながら、永山さんは「夫婦円満」、大平さんは「奥さんと子ども3人の幸せ」を願い、祝い水を浴びました。

寒さに耐えるのもこの祭りの醍醐味

最後に竹を奉納。この竹を持ち帰るとご利益があります

四方から、足、腰、頭の順に水をかけます

報道カメラも油断をすると水をかけられます

CHECK! 動画が見られます!

復興へ向けた動き

平地区 津波避難訓練

1月16日、市主催の津波避難訓練が各沿岸部で行われました。沼ノ内、薄磯、豊間地区でも10時に防災無線から警報が鳴り、訓練が始まりました。各避難所の参加人数は豊間119名、薄磯63名、沼ノ内100名。

薄磯の〈雲雀の苑〉では観光客も参加し、観光協会と鈴木一好会長の誘導で灯台近くの高台へ避難しました。

店のスタッフや観光客を先頭で誘導する鈴木会長

また、沼ノ内公民館では東北大の協力で電気自動車から電源を供給する実験や、各所での訓練の様子や学生たちの研究発表が行われました。

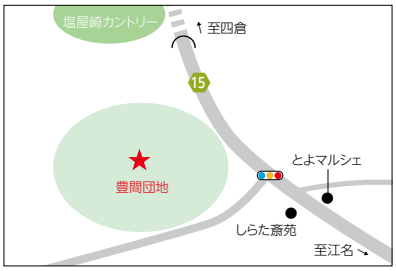
海まち・とよま 市民会議

1月16日、沼ノ内公民館で今年初の「海まち・とよま市民会議」が行われました。今後の活動について、主にソフト面を中心に行い、地域誌も発行していくこと、ロゴを使ったTシャツが完成し、これから活動時に着用することなどを発表しました。

完成したロゴTシャツ

津波避難ビルガイド

- 市営住宅豊間団地
- 住所／平豊間字榎木町202-2
- 階数／5階建（3階以上に避難）



····お知らせ····

薄磯地区

- 東日本大震災物故者薄磯区追善法要
- 日　時　3月11日（金）午後2時開始
- 式　場　薄磯　修徳院
- 問い合わせ
  薄磯復興本部
  ☎0246-39-4577

豊間地区

- 東日本大震災物故者豊間区追善法要
- 日　時　3月11日（金）午後2時開始
- 式　場　豊間漁港
- 問い合わせ
  豊間復興協議会
  ☎0246-98-6100

平地区ピックアップ

薄磯団地で「餅つき大会」

1月24日、薄磯団地集会所で、薄磯団地自治会主催、薄磯区共催の「餅つき大会」が行われ、地域の方々が参加。餅つきを行い、バンド演奏を楽しみながら、交流を深めていました。

団地内が活気づきました

豊間小「西会津交流会」

1月22、23日、豊間小と西会津小の交流会が西会津の「さゆり公園」や西会津小校庭などで行われ、昨年夏のいわき交流会以来の再会に、雪深い西会津で友情を深めました。

雪の中60名の参加者があった

支えてくれた人と言葉を胸に 自身の体験と命の大切さを伝える

志賀　としえ さん

古湊に住んでいる志賀としえさん。22歳の時に白血病を発病、ドナーが見つかり24歳で骨髄移植を受け、現在は元気に過ごしています。「母の支えがあったから乗り越えられました」長かった闘病生活を振り返ります。また、ドナーの方から頂いた"すごい確率のなか出会った貴方へ"という手紙を、いつも大切に持ち歩いています。

現在は夫の仕事の事務をする傍ら、県の骨髄バンク推進連絡協議会運営委員として活動。また、海あるき町あるき江名の町再発見のイベントでは司会も務めるなど活躍しています。

地震の時、自宅にいた志賀さん。急いでお子さんを保育園から迎えに行き、住吉にある夫の事務所に2日間避難しました。自宅は床上浸水。水道が出ないなか、津波のヘドロ処理や掃除をしました。

また、志賀さんの実家は宮城県気仙沼市。津波で両親と義理姉を亡くしました。父の火葬の日、志賀さんが見ていたニュース番組で母校の階上（はしかみ）中学校卒業式が映されていました。答辞を述べる梶原裕太さんの言葉が心に響きました。

「苦境にあっても天を恨まず運命に耐え、助け合って生きていくことが、これからのわたくしたちの使命です」。

何があっても負けないように生きていこうと決意したそうです。

しかし、両親に何も恩返しが出来ないままの急な別れが来たことが心残り。「震災を忘れず、語り継いでいくことが私の役割」と、心に決め、全国の小・中学校などの講演会で自身の闘病生活や骨髄バンクの必要性、震災体験などを話しています。「人生いいこと悪いこと、1つも無駄なことない、何事も受け止める」。周りの支えで元気になれた志賀さんは、命の大切さをみんなに考えてもらいたいと、自身の経験と共にこれからも伝え続けます。

成人式を迎えた震災の日の卒業生

1月10日、パレスいわやで平成28年小名浜地区成人式が行われました。出席者は男性314名、女性279名、合計593名。小名浜二中卒業生の石井麗加さんが「未来に向かって努力することを忘れない」と新成人代表で挨拶を述べました。

新成人代表挨拶をする石井麗加さん

式典後の記念行事を楽しむ江名中学校卒業生

江名の町再生について話し合う

1月30日、江名公民館で「第28回国づくりシンポジウム江名の町再生プロジェクト漁港のまちから、新しい賑わいのみなとまちへ」が行われました。清水敏男市長や県小名浜港湾建設事務所所長の和田豊さんによる基調講演があったのち、江名の町再生プロジェクトのみなさんなどによるパネルディスカッションが行われました。

江名町再生について考えを発表するみなさん

復興へ向けた動き

江名中学校 避難階段と避難路、耐震化工事完成

津波避難場所となっている江名中学校の避難階段と避難路が昨年12月に完成しました。

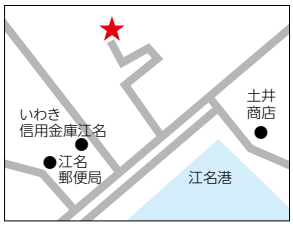
また、平成26年11月から行われていた校舎の耐震化工事も昨年11月に完了。12月初旬に引き渡されました。

校舎北側に造られたスロープ式避難路

体育館西側に造られた避難階段

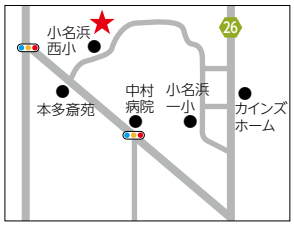
津波避難場所ガイド

●江名幼稚園



●住所　江名字上代21
●面積　2,234㎡
●海　抜　21.3m

●小名浜第一中学校校庭



●住所／小名浜岡小名字山田作15
●面積　10,984㎡
●海抜　31.9m

市津波避難訓練、下神白地区で実施

1月16日、市内沿岸部5地区で津波避難訓練が実施されました。下神白地区や館ノ腰地区の住民は警報が鳴ると、県立小名浜高校や御霊神社、狩亦（かりまた）児童遊園に避難。同高校では市小名浜消防署警防第二係長の藤田博司さんが津波の恐ろしさや避難の方法などの防災講話を行いました。

また、起震車も用意し、改めて地震の恐ろしさを体験しました。

9月に完成した小名浜高校の避難階段を利用して避難する住民

小名浜ピックアップ

火柱上がる、どんと祭

1月12日、小名浜諏訪神社で例大祭清祓火祭（きよはらいひまつり）「どんと祭」が行われました。昨年のお札やだるまなどを境内でお焚き上げ。大勢の地域住民が集まり、無火災、無災害などを祈願していました。

住民らは燃え盛る炎を見ながら、体を温めていました

祖父母と一緒に伝承遊び

1月15日、永崎保育所で伝承遊びが行われました。子どもたちの祖父母が約50名保育所を訪れ、けん玉や羽根つきなどを楽しんだ後、お昼ごはん。年長児からレターラックをプレゼントされました。

一緒にコマ回しを楽しむ祖母と子どもたち

彩豊かに飾られたつるし雛

2月6、7、8日、清航館をメイン会場に中之作つるし雛飾りまつりが行われました。裁縫教室ままやの中川敬子さんや、その生徒が作ったつるし雛。お茶会やカフェ、地元物産の販売も行われました。

3,000個以上のつるし雛に見入る来場者

CHECK! 動画が見られます！

燃え盛る炎を見つめながら、ふるさとの早期復興を願う人々

CHECK! 動画が見られます!

”人の和　まちの輪　自然の環”

みんなで絆（つな）げる 地域の「わ」 Part.2

昨年12月6日の第1回に続き、「第2回小浜と岩間『わ』の集い」が1月7日に行われました。今回は、地域文化・歴史の継承と、住民の絆（つながり）の維持を目的とし、岩間海岸での伝統行事「酉小屋」の復活に挑戦しました。

震災があった年の1月を最後に、途絶えてしまっていた同地区の酉小屋。昨年12月20日には、岩間町好友会のみなさんを中心に地域住民が協力し、準備が行われました。

いよいよ迎えた当日。日が落ちる頃には大勢の人々が集まり、早朝から下ごしらえした、温かい甘酒や味噌田楽、うどんが振舞われました。焚き上げは、通例どおり午後7時に実施。集まったみなさんは、岩間の海を望む5年ぶりの灯火（ともしび）を前に、喜びをかみしめました。

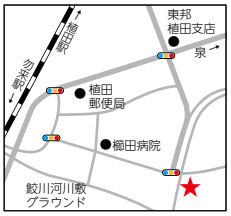
役員等が神棚に一礼した後、小屋に火を放つ同好友会の樋田裕一会長

寒いなか足を運んだ方々のために、甘酒などの仕込みを行うみなさん

同地区で調達した笹や竹を使い、協力して手際よく酉小屋を制作

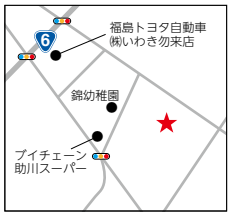
津波避難ビルガイド

●植田公民館



●住所/植田町南町一丁目2-2
●階数/3階建て（3階以上に避難）

●錦東小学校校舎



●住所/植錦町鷺内64-5
●階数/4階建て（3階以上に避難）

勿来地区　追悼行事のお知らせ

3月11日

小浜海岸「心の駅」

震災復興5周年 夢と感動・勇気と希望を！「復興祭」心の駅

10：00～　追善供養・交流会
※雨天の場合は小浜公民館にて実施。
【問い合わせ】　NPO法人おぢや元気プロジェクト
☎0258-82-2650

3月11日

小浜海岸

なこその希望プロジェクト2015 ～5年目の3.11～

14：30～　追善供養・黙祷（14：46）
18：00～　祈りのキャンドル点火・トゥインクルハート点灯
希望の花火打ち上げ
※小雨決行。どなたでも参加可能です。
【問い合わせ】　なこその希望プロジェクト2015実行委員会
☎0246-63-5055

復興へ向けた動き

勿来と双葉の共生 コミュニティデザイン事業

1月25日、第12回が双葉町役場いわき事務所で行われました。

前回に引き続き、窪田地区周辺のマップ作成に向けて討議。今回は3つの班に分かれ、店・地域資源・病院・公共機関を色分けし、地図上へのマッピングを行いました。

また、来年度の事業計画についても話し合われ、様々なイベントが提案されました。

昨秋に実施した「くぼたんけん」も参考にし、施設をマッピング

蛭田川（ぴんだ） 堤防工事に伴う橋の架け替えを開始

平成25年11月より、河口から約1、340mの範囲で河川堤防のかさ上げ工事を実施している蛭田川。今年1月から、それに伴う蛭田橋の仮設工事が開始されました。

現在は、仮橋を架けるための盛土工事に着手しており、仮橋の完成後に既設橋の撤去を実施します。工事は平成30年度末の完了を予定しています。

写真右が蛭田橋。赤い点線の部分に仮橋が設置されます

九面地区 津波避難訓練を実施

1月16日、市内沿岸部で実施された、市津波避難訓練。勿来では九面地区を対象に、避難誘導訓練や炊き出し訓練を実施。また、同地区および関田地区の消防団員も駆けつけ、情報伝達・収集訓練も行われました。

サイレンの音を聞き、高台へ避難する住民のみなさん

炊き出し訓練では、地区のお母さん方が温かい豚汁を用意

勿来ピックアップ

色とりどり華やかな雛飾り

今年も1月4日から31日まで、勿来地区にお住まいの小野悦子さん、小松スミ子さん姉妹による「つるし雛飾り姉妹展」が開催。四季の花や動物など、1000点以上もの色鮮やかな作品が並びました。

泉町のいわきかまぼこ工房〈ゆめギャラリー〉で行われた同展

みんなで楽しく映画鑑賞

1月6日、植田公民館にて、「冬休み子ども映画会」が行われました。「わらしべちょうじゃ」など、全4作品を上映。地震や火災を題材とした作品も流され、子どもたちは楽しく防災知識を学びました。

アニメ映像が流れるスクリーンに、釘付けの子どもたち

未来を担う新成人の門出

1月10日、勿来地区の平成28年成人式が〈八幡台やまたまや〉で行われました。今年は男女合わせて454名の新成人が誕生。旧友との再会に満面の笑みを咲かせながら、大人への第一歩を祝いました。

新たな人生の幕開けに、胸を躍らせる新成人のみなさん

いわき市 ふるさとだより 第57号
平成28年2月20日発行
●発行:いわき市 ●編集:有限会社 いまじゅ ふるさとだより編集室
●編集室:〒973-8411 福島県いわき市小島町3丁目3-3 プリンセス・アイ1F
Tel&Fax:0246-26-5157
Mail:furusato@asally.co.jp
http://www.furusatodayori.com

お知らせ

いわき市防災集団移転跡地活用事業計画の公募について

市では、津波災害を受けた末続・金ケ沢・走出・錦町須賀地区において「防災集団移転促進事業」を実施し、移転元地(跡地)を取得。今後の復興・創生期間に向けた取り組みとして、昨年12月より、津波被災地の「なりわい・コミュニティの再生」を目的とした企業誘致を進めています。現在、事業者から跡地活用に係る事業計画の公募を実施しています。詳しくは下記まで。

【問い合わせ】
都市復興推進課　沿岸域復興推進第二係
☎0246-22-1243

◆公募地区　防災集団移転跡地（市内4地区 合計 約10ha）

区域名	所在地	利用可能面積
末 続 地 区	いわき市久之浜町末続字岸内40番ほか	約3.5ha
金ケ沢地区	いわき市久之浜町金ケ沢字戸ノ入24番1　ほか	約2.2ha
走 出 地 区	いわき市江名字走出174番29 ほか	約0.5ha
錦町須賀地区	いわき市錦町須賀63番　ほか	約3.8ha
合計		約10.0ha

❋プチ講座❋ なるほど！いわきの歴史コーナー Part.9

「ライス・キング」と呼ばれた国府田敬三郎

明治15(1882)年12月、現在のいわき市小川町生まれの敬三郎は、福島師範学校に進み教師となり、差塩小学校の先生兼校長を務めましたが、渡米の夢を捨てきれず、実行に移しました。大正9(1920)年、多くの協力者とともに米作を始め、飛行機を使い空から水田に種をまくという大胆な方法で米作りに成功。のちに、太平洋戦争の開戦による収容所暮らしを経て、終戦後に農園を再開し、さらに品種改良をした「国宝ローズ」の大量生産に成功し「ライス・キング」と呼ばれるようになりました。現在も代表的なカリフォルニア米の一つに挙げられています。また、米作以外でも「外国人土地法」の撤廃や、スムーズに融資を受けられるよう東京銀行にカリフォルニア支店を設立するなど、日本人・日系人の待遇改善のために尽力し続けました。

小川町で営業している〈小川米店〉に飾られている、国府田敬三郎の遺影(享年82歳)

できごと PICK UP

応急仮設住宅や災害公営住宅ほか市内各地のイベントやできごとを紹介

2月2日～ 「平成27年度ふるさとだより展」開催中!

今年も毎年恒例の「ふるさとだより展」が、2月25日(木)まで〈いわき・ら・ら・ミュウ2階展示室〉で開催中です。

また、3月2日(水)から3月27日(日)までは〈いわき総合図書館〉にて実施。なお会場が、ラトブ5階から4階に変更となります。

記事の一部や、誌面に未掲載の写真などを多数展示

お知らせ

3.11 いわき追悼の祈りと復興の誓い2016

◆開催日程
【日時】平成28年3月6日(日)14:44～(開場13:30)
【会場】いわき芸術文化交流館アリオス大ホール
※入場無料・事前申込み不要
※自由献花の時間を設けます。
なお、服装は礼服以外でも構いません。
※3月11日(金)14時46分から1分間、全市的にサイレン吹鳴を行います。

各地の復興工事進捗状況

滑津川水門工事〈下高久字南谷地地内〉

1月末現在

【施設概要】
◆本体幅:37.3m
◆施設高:21.4m
◆水門は、自動・遠隔化により広報時間を含め約7分で閉鎖します。
◆工事期間:平成27年1月～平成29年2月までを予定

ふるさと伝言板

将来のライフプランを無料で個別アドバイス!

「住まいと暮らしの再建相談会」

◆日　時　3月13日(日)
①10:00　②13:00
③15:00 (各90分程度)
◆場　所　いわき市文化センター
◆定　員　9組 (各時間3組)

※お申し込みは開催日の3日前まで。
【予約・問い合わせ】
市ふるさと再生課
☎0246-22-7437

【いわき企業合同就職面接会】

◆日　時　3月8日(火)
午後1時～3時
◆場　所　いわき産業創造館
ラトブ6階
◆参加企業　35社程度

※参加無料・履歴書不要
予約不要・入退場自由
【問い合わせ】
福島広域雇用促進支援協議会
☎024-524-2121
ホームページ
www.fkkoyou.net/

ふるさとだよりの記事が動画でも見られます！

①COCOAR アプリをダウンロード
iPhone/iPad「AppSTORE」から
Android「Google Play」から

②インストール後、アプリを起動するとスキャン画面になります。
③スマホをかざして画像をスキャンします。
④認識するとコンテンツが表示されます。

※画像に光が反射しないようにスキャンしてください!
注)ネット環境によって表示に時間がかかる場合があります。